

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800170		
法人名	有限会社 高村		
事業所名	輝ららのさんぼ道 グループホーム		
所在地	島根県益田市遠田町2291番地		
自己評価作成日	令和元年5月13日	評価結果市町村受理日	令和元年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年6月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個別支援(利用者の夢、やりたいことを叶える)  
 食材や季節にあった食事、楽しんで食べる食事  
 外出支援(旅行など)  
 家庭的な環境(全面量)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員のレベルアップに研修や勉強会を計画的に進め、独自に「グループホームのクレド」を作成し、責任ある支援や意識の向上につなげている。日々利用者の思いや意向を聞きその人らしい暮らしになるよう個別に支援している。年2回の家族会は利用者、家族、職員の関係を作る大切な場であったり、家族間の交流の場となっている。地域との関係も活発になり相談や協力依頼も在り地区の行事に出かけたり、介護の勉強やボランティアの来訪もある。設立時の利用者はもちろん周りの人や職員みんなが幸せになれる場所でありたいとの思いで取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、月1回の全体会議で「経営理念」「行動指針」「スローガン」を唱和している。また、独自で「グループホームの credo」を作成して毎朝、グループホームの朝礼時に読んでいる。	全職員で話し合い利用者目線に立ち「グループホームの credo」を作成し、具体的な行動指針や心がけるべき信条を毎朝唱和し日々理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回祭りの開催と益田市の町おこしで INKAライドのイベントに利用者様が作られた「自転車のチェーンを磨く掃除道具」をブースにて販売する予定	事業所の祭りには多数の参加があり利用者も楽しく過ごされた。地域行事や公民館のイベントに作品を出展したり運動会や神輿担ぎに職員も参加している。リンパマッサージや歌などのボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社の介護技術プロジェクトチームが地域の方に介護技術や介護相談などを開催。実際にも3月に地域のサロンの方に講習を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域から「防災に対する対策」の指摘があり、当社のマニュアルを見て頂き、問題点や改善点をご指摘いただき、マニュアルや避難訓練に活かした。	日頃の様子や家族との一泊旅行などスライドで報告して話し合い、意見をもらいサービスの向上に繋げている。公民館のイベントへの参加や運動会の案内などあり活動に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に来て頂き、日頃の様子をお伝えすると共に、不明な点は連絡して相談している。	主に運営推進会議で実情や取り組みを伝え協力関係を築いている。介護相談員に来てもらう事で利用者の状況や事業所の様子も知ってもらえている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げ、3か月ごと、また、新人職員が入った時には、チェック表を施行し身体拘束についての意識を高めている。	定期的な身体拘束防止委員会や自己チェックリストを活用し具体的な理解や意識の向上につなげている。利用者の立場に立った関わりや声かけに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上で身体拘束、虐待に対するアンケートチェックシートを行い、意識を高める。また、部門ミーティングで話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成し、研修会を行ったり、いつでも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、改定時には同意書に記名、印鑑を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の開催や苦情BOXを活用してご家族の苦情を聞くようにしている。	面会時や便りで意見を聞いている。泊まりを含めて2回の家族会を開催する事で職員と家族、家族同志の交流が出来て気軽に相談や悩みを話し合える関係になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員と面談を行い、意見や困っている事を聞いている。言いにくい事は言いやすい職員に話をして、そこから改善するようにしている。	日頃から意見が言え、相談出来る雰囲気づくりを心がけると共に、毎月の会議や年2回の面談などで話し合う機会を設けている。手順や動線の変更などの提案を積極的に検討し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを作成し、その進捗状況を踏まえて面談を行っている。そこでやりがいや役割を認識しコーチングするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(コミュニケーション、理念研修、コミュニケーション研修)を定期的で開催し、職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム管理者会の参加や、年に2回のグループホーム職員の交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや吹き出しシートを作成し、ご利用者様の声を聞き取っている。また、安心できる声掛けを行い、皆で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ、ご家族やご利用者様に担当者会議に参加していただき、要望を聞くようにしている。また参加出来ない際にも連絡を取り要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者の状況を確認、把握して計画作成者と相談しながら、その方にあったサービスやプランに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さんぽ道の方針は「大家族」です。利用者様を「ファミリーさん」と呼び家族として接している。出来るだけ家に近い環境で過ごして頂ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取ったり、お便りにご利用者様のご様子を伝えるようにしている。また家族会はもちろん行事やお祭り、旅行にも参加していただくようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や娯楽施設、友人との面会や食事会、昔の行きつけの店、お墓参りなどにも行っている。	馴染みの関係など利用者の思いや希望に添えるように取り組んでいる。「高校の同窓生と食事をしたい」「昔遊んだ娯楽施設に行きたい」「墓参りに行きたい」など家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆ど毎日行事があり、利用者との交流はある。また、ほとんどの方がホールで長時間過ごされることが多く、皆様で過ごされることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1名の方が死去の為に退去されました。その方の奥様も当初より申込みをされており、「是非、母もここでお世話になりたい」と言ってくださり、奥様が入居された。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別支援も重視し、一人ひとりの思いに寄り添い、お墓参りや娯楽施設、温泉に行った。	日々の会話の中で本人の今の思いや希望を聞き「吹き出しシート」に書き込み一人ひとりが望む暮らしになる様プランにつなげている。起床時間、食事時間など利用者のペースを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファミリーさんの吹き出しシートを作成し、本人の今までの生活歴だったり、趣味、思いなどを書き込み、みんなで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や日誌、連絡帳を活用しその方の状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成者、担当職員、ご本人、ご家族で、出来るだけ担当者会議を開催し、要望や改善点などを話し合いし、計画に上げるように努めている。	担当者は毎月モニタリングを行い、利用者の今したい事、楽しみたい事などの情報を基に皆で十分検討し本人の満足いくプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌、連絡帳を活用しその方の状況を把握するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さんぼ道には、訪問看護、訪問美容(生活支援)があり、急な病気や散髪などにも即座に対応している。また、食事も急に「これが食べたい」という事があれば出来るだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一緒に買い物に出かけたり、文化祭や運動会の参加をしている。また、ボランティアの方にも来て頂き、いろいろな行事をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎に協力医の往診がある。また、協力医でないかかりつけ医も往診に来て下さり、急な体調変化にも対応してくださっている。	協力医、かかりつけ医の訪問診療や緊急時の相談など協力が得られている。専門医への受診は家族対応としているが、要請があれば同行し連携を取りながら安心して医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの管理や体調変化の対応、服薬管理をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後にはその方の情報を即座に連絡し、退院時も情報を確認し対処方法を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年9月にお亡くなりになられた方がいる。その際には医師やご家族、看護師、職員との話し合いの場を持ち、皆が安心して終末期を迎えられるようにした。	医師、訪問看護師と連携を取りながら「家族と家で過ごしたい」「最後に風呂に入りたい」など思いに寄り添い、家族やチームで支援に取り組んだ。最後は利用者、職員など皆で看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を行い、マニュアルも見れるようにはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、消防訓練を行っている。地域の消防設備会社にも来て頂き、訓練を行った。	毎月、夜間想定も含めて防災訓練を実施している。防災設備会社の協力や指導もあり全職員が身につけ把握している。地域との協力体制については課題として検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「輝ららの credo」をもとに現状に応じた介護 credo「グループホームの credo」を作成し、毎朝みんなで読んでおり、実践するように対応している。	毎日理念を基に信条や行動指針を確認し、話し合いながら利用者の立場や目線に合わせた言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定していただいたり、要望を聞き入れ出来るだけ対応できるように努めている。ファミリーさんが急に「寿司が食べたい」と言われ、急遽メニューを変更し昼食にお出しし食べて頂いた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ファミリーさんの要望を出来るだけ聞き入れ対応している。食事も食べたい時に食べ、起床も声は掛けるがお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝には洗顔や整髪を行い、季節に応じた洋服を一緒に選び、時にはお化粧品やブロー、マニキュアやマッサージなど希望があればしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物を把握したり、希望食や外食を取り入れたり、バイキング形式にして楽しんでいただいている。また食事づくりもできる事はやって頂き、野菜を切ったり、盛り付けをしたり一緒にしている。バルコニーで食事をしたりお弁当を持って出かけたりしている。	下ごしらえ、盛り付けなど一人ひとりの力を活かし一緒にしている。利用者の嗜好や好みなどを聞き寿司、マックバーガーを食べるなど柔軟に対応し、「食」は大切と位置付け支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を表にし、職員が見れるようにし、水分が少ない時には飲んでいただくようにつ配慮したり、飲みにくい人はゼリーや好みの飲み物を用意し飲んでいただいている。食事が少ない時も栄養補助食品も代用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを確認している。また、自ら上げ下ろししやすいパットの使用や、布パンツ変更にも取り組んでいる。	利用者の状況を把握し自立や改善につなげるよう取り組んでいる。利用者にとって肌触りや上げ下ろししやすい布ボクサーパンツ、パットを使用し自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物や体操を行ったり、ゼリーや乳酸飲料などの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や拒否される方などはずらして入って頂いたり、音楽を流したり、足浴、清拭などを行っている。また、希望があれば連日でも入って頂いている。	利用者一人ひとりが心地良く感じられるように声かけの工夫や音楽を流したり、デッキで利用者、職員と一緒に足浴をするなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて休息していただいたり、安心できる声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や効能、副作用については、ファイルに綴じてありすぐに見れるようにしている。病状の変化や薬の変更は日誌に記入しみんなで把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しめる行事や外出、買い物、散歩等で気分転換を図ったり、個別支援で特別の思いのある事にも取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物には出来るだけ同行していただくよう努めている。また、外出行事も頻繁に取り入れれ色んな所に出かける様に努めている。また、家族や職員を含め1泊旅行も実行した。	「今やりたい事をしてもらおう」との思いで日常的に散歩やドライブ、畑の果実や野菜の収穫をするなど五感を大切に支援している。デッキでお茶や食事をするなど楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持の規制はないが、基本皆様お金を所持しておられないです。欲しい物があれば、基本立替で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話の希望があればいただいています。事前にご家族の了承も得ています。年始には年賀状も書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外は共有スペースですが、特に問題やトラブルや苦情はありません。	生花や季節に合わせた飾りつけをし季節感を取り入れた環境づくりをしている。和紙畳やソファを設置し一人ひとりのペースでそれぞれの心地良い場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや冬にはこたつ、ウッドデッキに出たりといろいろなところに場所を移し過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が狭く馴染みの物もまだまだ少ないです。中でも、ご自分で作られた作品などをたくさん持ってきておられる方もおられます。	TV、ハンガーラック、壁には家族の写真や自分の作品など飾っている。家族来訪時、一緒に円卓を囲みお茶を楽しんでいる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方が多いですが、全面が畳なので、ご自分の素足で歩行することによって安全が保たれています。		